

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月17日

提出区分	実績	整理番号	1	課題区分	C
横断的な課題	若者定着のための雪に強い故郷(ふるさと)暮らしの推進				
地域重点政策	若者定着のための雪に強い故郷暮らしプロジェクト				

北信地域振興局

実施機関	北信地域振興局	担当課	所属	企画振興課(総務管理課、下高井農林高)
事業名	子育ての支援と子ども・若者の郷土愛の醸成		電話	0269-23-0201
			E-mail	<a href="mailto:hokuchi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">hokuchi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>

事業の概要	目的 (目指す姿)	①地域の多様な担い手による「こどもの居場所(みんなの居場所)」づくりの推進を図る。 ②高校生の「探究的な学び」を支援するとともに、魅力ある就労・起業のイメージを想起させる。 ③高校生による地域資源の活用・発信を通じ、若者の郷土愛の醸成をめざす。
	現状と課題	【課題】①管内では中野市を中心に「こどもカフェ」が13カ所で運営されているが、こどもカフェの取組が行われていない地域がある。 ②北信地域は、急速な人口減少と少子高齢化が進む地域であり、特に高校卒業後、若年層が関東圏等へ流出したままとなっている。 ③竹林の整備を進め竹の資源活用のためバンブーキャンドル制作に取り組んでいるが、活動範囲を広げて観光資源としての提案を進める必要がある。 【原因】①「こどもカフェ」の運営に興味のある人に対して始めるきっかけや手法を学ぶ場が十分提供できていない。 ②今後の地域活性化を担う若者たちに向けた、地元での魅力ある就労、地域課題を解決するための起業を想起させる機会が乏しい。 ③土地所有者の高齢化などにより放置竹林が増加しているが竹を観光資源として十分に活用できていない。 【事業】①興味のある人が行動に移せるよう、取組のない地域で、「こどもカフェ」の実体験を通して運営手法を学ぶことで、担い手を増やし取組の推進を図る。 ②長野県立大学CSIと連携し、飯山高等学校において探究的な学びの機会を提供する。前年度は医療非常事態宣言発出に伴い当初の予定通りに実施できなかったため、オンライン等も活用し、生徒の機会損失とならないよう計画的に実行する。 ③広くバンブーキャンドルを知ってもらうため、地域でのワークショップの開催や、バンブーキャンドルのスポットを作り観光ツアーを計画する。
要 等	内容 (変更後の内容)	①【おでかけこどもカフェ実施事業】 ○こどもカフェの取組が進んでいない地域において、既に取組を行っている運営者の協力を得て開設希望者、児童・民生委員、地域住民等とこどもカフェをモデル的に開催する。 【概要】 ・実施内容：ゲーム等ミニイベント、食事、交流会 ・5月、7月、10月(計3回)開催予定。 ②【地元高校生向け「学び」「起業」支援事業】 ○県立大CSIと連携し、飯山高校探究科の生徒を対象としたワークショップ等を開催する。 【概要】 ・「学ぶこと、働くこと」等をテーマとした講義 ・魅力ある就労・起業を実現している管内事業者との交流会、ワークショップ ③【竹林の間伐材を活用した観光資源づくり】 ○竹林の間伐材を使いバンブーキャンドルを作成(8月下旬)。地域と連携して、設置場所やPR方法を検討し、新たな観光資源として提案する。
	事業期間	令和4年4月 ~ 令和5年3月

(単位:円)			
事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考
おでかけこどもカフェ実施事業	おでかけこどもカフェのモデル開催	146,912	支援者等謝金102,300(@3,100×3H×11人) 食材等購入費41,212 会場使用料3,400
地元高校生向け「学び」「起業」支援事業	県立大CSIとの連携による飯山高校の生徒を対象とした講義、ワークショップ等(2回/年)	162,487	講師謝金155,400 旅費7,087(県立大~飯山市、飯山市内)
高校生による地域資源を活用した取組(竹林の間伐材を活用した観光資源づくり)	竹林の間伐材を用いたバンブーキャンドルの制作、地域と連携し設置場所やPR方法の検討	65,220	製作用工具等の購入費65,220
合計		374,619	

指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況
	モデル開催が今後の運営に参考となった人の割合		7割以上	98%	● 達成
新規「こどもカフェ」の開設		1箇所以上	2箇所	○ 一部達成	
講義・ワークショップの内容に満足した生徒の割合		7割以上	88%	○ 未達成	
観光地等にバンブーキャンドルを設置し新たな観光資源として提案(R3年度:2箇所)		2箇所以上	2箇所	○ 未達成	

事業実績・成果	<p>【おでかけこどもカフェ実施事業】</p> <p>①飯山市「秋津おでかけこどもカフェ」5月14日(土)秋津地区活性化センターで実施、地域の子育て世代他、地区主任児童委員等33名が参加。子どもだけでなく多世代が集う場所になればとの声があった。</p> <p>②中野市「西町おでかけこどもカフェ」6月18日(土)西町公民館で実施、子育て世代や市議、区長等43名参加。地域ぐるみで子どもを育てる町になったら素晴らしいとの声もあった。</p> <p>③飯山市「外様おでかけこどもカフェ」3月4日(土)外様地区活性化センターで実施、地域の子育て世代、取組に関心のある方等33名が参加、こども食堂の存在は知っていたが参加してみても困ってなくても誰でも参加できる地域の集いの場であることを知るいい機会となったとの声もあった。</p> <p>【地元高校生向け「学び」「起業」支援事業】</p> <p>・飯山高等学校探究科1学年67名を対象に「学ぶこと働くこと」をテーマとして、①6月30日(金)県立大馬場智一准教授による哲学対話、②7月14日(木)魅力ある就労・起業を実現している飯山市事業者4名と交流会を実施。 ・対話を通じて考えを深めた、ゲストの言葉に影響を受けた等の意見があり、生徒自身が働くイメージを膨らませる機会となった。</p> <p>【高校生による地域資源を活用した取組(竹林の間伐材を活用した観光資源づくり)】</p> <p>・松本市、木島平村、野沢温泉村でワークショップを行い、小中学生から一般の方まで幅広い年齢層を対象として活動することができた。その他、「いいやま駅まつり」にあわせJR飯山駅連絡通路にて「竹あかり展」を開催した。 ・昨年までは、村内を中心に展示してきたが、今年度はワークショップに力を入れ活動を行なった。ワークショップを通じ、楽しくできるサスティナビリティーを体験していただいた。SDGsやサスティナビリティーについて考える時間を共有することができた。</p>
---------	---

今後の方向性	<p>【おでかけこどもカフェ実施事業】</p> <p>引き続き、おでかけこどもカフェで取組のない地域へ周知活動を行う。</p> <p>【地元高校生向け「学び」「起業」支援事業】</p> <p>引き続き、県立大CSI、飯山高等学校探究科と連携した取組を実施する。</p> <p>【高校生による地域資源を活用した取組(竹林の間伐材を活用した観光資源づくり)】</p> <p>引き続き、ワークショップを通じ、地域資源の活用法について発信していく。</p>
--------	--